

航空自衛隊クラウドシステムにおける 将来環境変化を考慮したゴール指向要求分析手法の提案 ～ AI活用時代を見据えた運用部隊の要求分析 ～

名前：加茂 世

開発における問題点



- 国際情勢の変化やAI・無人機の進展により、運用環境・任務が将来大きく変化するが、現行の要求分析では十分に考慮できていない。
- 運用部隊ごとに目的・優先順位・必要な情報が異なり、将来環境においても要求が大きく変わる可能性がある。
- そのため、将来必要となる要求を現時点で体系的に分析・明確化する方法が確立されていない。

手法・ツールの適用による解決



- ステークホルダー分析・BMC・GQM+Strategiesにより、現状の目的・価値・要求を整理する。
- AI活用拡大などの将来環境シナリオをGQMのAssumptionとして反映し、Goal・Strategy・Assumption・Measureを見直す。
- As-IsとTo-Beを比較し、将来環境において新たに必要となる要求(将来要求)を現時点で導出し、明確化する。

提案手法の全体像（6ステップ）



期待される効果



- 将来環境変化を体系的に要求分析へ組み込める
- 部隊ごとの要求変化を比較・可視化できる
- なぜ要求が変化したのかを、Goal・前提条件との関係から説明できる
- 将来を見据えた計画的なシステム開発・運用の検討に貢献する

今後の課題



- 提案手法の実案件への適用・検証
- 生成AIを活用した要求分析の効率化
- 他システム・他部門への展開
- 継続的な見直しによる手法の改善